

変えよう!
change
兵庫県

憲法が輝く兵庫県政をつくる会
第32号 2018年3月10日
メール: Info@kenpo-kensei.com
HP・ツイッター
「兵庫・憲法県政の会」検索! 【部内資料】

第14回定期総会を開催

要求運動と結び県政転換の旗印を鮮明にしよう



「県は中小業者施策の拡充を」と中小業者決起大会
11月16日(上)
県民いじめの「行革」ストップ!要求実現連絡会
県庁前宣伝12月・3月(右上)
「5・3兵庫憲法集会」プレ集会
18年3月1日(右)



「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は、2月15日に第14回定期総会を開催し、22の加入団体・地域の会から49人が出席しました。総会は、2021年選挙にむけ、17年知事選挙の結果をふまえて、選挙の総括と教訓をさまざまな角度から深く検討し、活動を改善・強化することを確認しました。

総会では、石川代表幹事のあいさつ、後、東郷事務局局長が運動方針の強化点を報告。

①要求運動と結び県政転換の旗印を鮮明にしていくこと、②野党と市民の共闘に知恵と力をつくすこと、③加入団体、地域の会との連携など組織活動を強化することなどを呼びかけました。

討論では、加入団体や地域の会から知事選挙の教訓と強化点、切実な要求や、その実現の取り組みが報告されました。決算・予算、役員体制、会則改定、特別決議を含む、すべての議案が提案通り採決されました。

また、兵庫県自治体問題研究所の岡田理事長、未来の社会を考える仲間たちの久一共同代表、市民にあたたかい神戸をつくる会の那須事務局長からあいさつを頂きました。

【開会あいさつ】 石川康宏代表幹事

「安本法制」の強行以後、安倍政治と「市民と野党の共闘」の対決が深まり、「共闘」の破壊をめざす逆流が全国的に強まる一方、昨年7月の兵庫県知事選挙では、政治転換を願う声を自身の本性を隠して横から吸収しようとする新しい動きが生まれました。一定の努力と進展にもかかわらず「津川で勝てる」という確信を県民に示す「共闘」の達成に至らなかったことが、私たちの最大の弱みとなりました。

次期選挙に向け、この点の打開を系統的に追求する高い意識性をもった取り組みを、県でも地域でも進めていく必要があります。深い討論を期待します。

【発言】 津川知久代表幹事

いま、県庁1号館の屋上には「平成30年7月12日兵庫県政150周年!」の看板があがっています。地方自治の精神にもとづく現憲法下の70年と、絶対主義的天皇制政府の下請け機関であった80年を合計して、祝意を県民に押しつけるとは!あの看板を見るたびに怒りとくやしさがこみあげてきます。

でも8カ月間、みなさんと一緒に楽しく選挙を闘うことができました。感謝の思い一杯です。県下をまわり、たくさんの方とお話しする中で「知事になってもやれる」確信は湧いてきました。結果は残念でしたが、いまさかんに取り組まれている3000万署名運動、その共同の拡がりは、憲法が生きる県政を実現する底力にもなると思います。

新婦人県本部・垣本千里平和部長

女性の力で県政を変えようと、選挙カフエや紙芝居で県政をわかりやすく分析して、要求を出し合ったことが、私たちの力で県政を変えようと女性たちの意識を大きく変化させてきています。

「私たちの暮らしと県政が深く結びついていること」「声をあげれば政治は変えられる」ことなど、女性の切実な要求で行動をひろげていく支部の活動が力強くなりました。この春から、就学援助制度の拡充などが11支部で実現し、病院の統廃合問題では市民との共同の輪が大きく広がって地域にクローズアップされています。

県民に見えるかたちで、憲法をいかに、要求運動を大きくひろげていくことが次の知事選の闘いのカギになっていくと思います。

保険医協会平田雄大事務局長

協会として、老人医療費助成制度や子ども医療費などの福祉医療制度の拡充等を要求運動の最大の結節点として位置づけ、取り組んできました。「医師・歯科医師の会」で取り組んだアピールには、過去2回を上回る199人が賛同。「医療者デー」と銘打った街頭活動なども行いました。

県は国の方針に従い、医療費の抑制に躍起だが、これまでの医療費抑制によりすでに医療現場は危機的な状況にあります。また、過労死ラインを超える医師の勤務実態の問題もあります。

こうした問題の解決に向け、地域の医療関係者と患者・県民とともに運動を進めることで、次の知事選挙では、私たちの要求を確実に票に結び付けられるようにしていきたいと思えます。

来賓あいさつ

兵庫県自治体問題研究所 岡田章宏理事長

自治研は、知事選挙毎に県政を研究して本を発行してきました。昨年は「兵庫10大ニュース」にもなった「人口減」に注目しました。大都市圏でのこれだけの人口減は、めったにありません。4年間の井戸県政の結果でもあります。

先日、唯一人口が増えている明石市に行きました。子育て支援策など様々な施策を集中しておこなっていますが、大事なのは住民目線です。兵庫県

未来の社会を考える仲間たち 久一千春共同代表

知事選挙で応援させていただきまし。津川さんと懇談し、本（ウイラブ兵庫）も読ませていただき、ブラウルート（米軍低空飛行訓練ルート）のことも知りました。知らなかった兵庫県のことを伝えたいと思ったのがきっかけです。憲法を大事にしている

市民にあたたかい神戸をつくる会 那須由美子事務局長

兵庫県政も神戸市政も、大型開発、大企業誘致に奔走し、県民、市民のくらし優先の政治にはなっていません。

神戸市長は、「持続可能な大都市経営」を押し出し、三宮駅・市役所周辺の開発、ポートタワー周辺の整備も行い、大型公共事業推進で、地域こわし

の人口減という事実は、そこでおこなわれている県政の問題性——住民目線になってないことを明らかにしています。徹底して住民目線で住民生活への施策を進めるのが、本来の地方自治だと思います。国の政治にも住民目線はありません。だとすれば、これまで以上に、住民の要求、考えをもっと明確に外にだし、発信していく作業が必要です。様々な人たちと議論し、いまより前に進められる社会をつくっていただければと思います。県政の会にエールを送ります

ことにとっても賛同します。私は原発関西訴訟のサポーター事務局をしています。これだけの被害があったのに、国連の勧告も無視し、憲法まで自分たちに都合よく変えようとしています。県政も、住民のことを思っているのか疑問です。人を大事に、憲法を大事にする県政になってほしいと思います。一市民として、普段から発信していきたいと思っています。

を進めています。「憲法にもとづき、命と健康を守る」一人間らしく生きるために、地域から声をあげ、このことが切実に求められています。大企業だのみでなく、自立した地域循環型の経済社会の確立、一人ひとりが豊かに生きられる社会をめざし、県政、神戸市政の刷新へ、一緒にがんばりましょう。



【閉会あいさつ】
兵商連・磯谷吉夫会長
兵商連は、4年連続で県下41自治体を訪問し、地域経済のことで、住民生活の向上のことなどで懇談を続けています。
「憲法県政の会」は、知事選挙で「人と地域にやさしい県政」にしようとして県民に呼びかけてきましたが、兵商連も自治体訪問の中で、アベ政治と県民の願いに背を向ける県政のもとで、地域がこわされている、しかし、その中で自治体職員が住民生活を守るために努力していることを実感してきました。
2021年の知事選挙を見据え、地域要求と県政を結びつける学習などで力を蓄え、ともに、地域から共同の輪を広げる運動にも取り組みましょう。

【発言】

原水協・梶本修史事務局長

兵庫県議会は昨年12月、ようやく非核宣言を行った。全国で42番目の宣言という遅れた状況だったが、「平和にこだわる兵庫県」を掲げてたがった県知事選挙の結果といえます。

しかし、全国各地で事故を多発させる米軍機の低空飛行訓練、北朝鮮脅威をおおって実施されている国民保護計画にもとづく避難訓練、中学2年生を自衛隊に送るトライアル・ウィークの継続、「現

行の枠組み、米政府の基本的な考え方というものを前提に判断した」という姫路港への米軍艦の入港容認など、「平和にこだわる兵庫県」には程遠い現状を変えることが求められています。

共産党・松田隆彦県委員長

国政選挙態勢の中でたまたか過去2回との違いや、知名度の高い新人の出馬で、様相が一変したもとの、今回、党として政治的、組織的な責任を十分に果たせなかつたと反省しています。

これまでにない市民との新たな共同も生まれましたが、県議会党派として井戸県政と正面から対決しているのは共産党だけであり、県政での野党共闘の条件が熟しておらず、今後、広範な県民との共同をどう追求し、広く県民の期待を集めていくかは大きな探究の課題です。次回選挙に向けて、憲法県政の会の活動発展の一翼をになつて奮闘する決意です。



兵庫区の会・井村弘子事務局長

神戸市では7月に知事選挙、10月に神戸市長選挙が連続してたたかわれるので、選挙のない時期も2ヵ月に1回の世話人会を開き、団体独自の要求と県政・神戸市政を結合して構成員への働きかけを粘り強く行えるよう討論してきました。

知事選挙は6ヵ月も早く候補者決定したことを生かして、勝利を正面に据えてたたかえたかどうか総括が必要です。兵庫の会が出された意見は、①事前ポスターの遅れ、②4人の候補者の違いを鮮明にできたか、③政策学習の不足、「県政の会」のDVDやパンフの活用が難しかった、④若者の要求を大事した取り組みができた、⑤川重造船問題など地域要求にも取り組んだ、などです。今回の教訓を次回の選挙に生かして取り組んでいきたいと思います。

共産党・きた結県会議員

井戸知事は、新年度予算案について「行財政改革の総仕上げ、兵庫の新时代を切り開く」としていますが、不要不急の高速道路予算温存など、県民の暮らし・福祉の願いに逆行しています。

社会保障関係費は、前年比2.6%増に抑え、国保料の負担増につながりかねない都道府県化をスタートさせる予算です。また、地域医療構想推進のための医療介護推進基金を積み増しして、病院再編、病床削減への誘導を図ろうとしています。また、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線などの大型高速道路事業を推進し、神戸市とともに三宮再開発への支援も行っています。

国の悪政の兵庫県への持ち込みを許さず、県民の要求実現の施策実現へ、運動を強めることが必要です。